

JOBURG EXPRESS

12月 発行 No. 7

ヨハネスブルグ日本人学校 中島緑郎

思い切って現地の人の中に飛び込みました。

ヨハネスブルグ日本人学校では、4月から小1～3年、小4～6年、中学部の3ユニットごとに現地理解をテーマに調べ学習を進め、学習発表会で様々な形で発表しました。その過程で、私は自分が担当する部分でなるべく現地の人々と直接子どもたちが交流できる方法を考えて、実行してみることにしました。

まずは9月の芸術発表会。実施内容も期日も担当者に一任されていたこの行事、たまたま一緒に働く現地人ドライバーの一人が元黒人居住区の SOWETO という地区の教会で聖歌を歌うチャーチ・クワイアのメンバーだと知り、その方々を学校に招いてコンサートを開いてもらおうと考えたのでした。

SOWETO は治安も悪く、日本人が個人で出入りできる場所ではありませんでしたが、そのドライバーさんの案内で家族を連れて直接教会を訪ね、日曜日の礼拝に参加して実際に彼らの素晴らしい歌声に触れました。彼らも直接自分たちの活動場所まで来た私を大歓迎してくれ、来校を快諾してくれたのです。



芸術鑑賞会終了後の週末、改めてお礼を伝えるために同僚を誘って教会を再訪しました。“来年も呼んでね！”と、今でも交流が続いています。



芸術鑑賞会はすべて一人で企画したので度重なる交渉などは大変でしたが、当日の子どもたちとクワイアーのメンバーの方々との交流はそんな苦労を吹き飛ばす素晴らしいものでした。

アフリカの伝統的な歌を10曲ほど歌っていただきましたが、全て伴奏なしのアカペラで、ハーモニーの力強さはもちろん、歌う時の彼らの表情の感動的だったこと！歌は心を伝えると、体全体で教えてくれたのです。



最初はおとなしく聞いていた日本の子どもたちでしたが、自然と一緒に歌って踊り出しました。現地の民族語の歌詞ばかりで意味はわからないはずなのに、思春期真っ只中の中学生、さらに保護者、教員までが引き込まれていきました。最後、アンコールで歌ってくれた南アフリカの国歌を、音楽の授業で学んでいた日本の子どもたちが一緒に歌いあげた瞬間には“涙が出た”とあるお母さんがおっしゃっていました。



To Be Continued !

